

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		154-01-02	
事務事業名		汚水整備事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線2322	
担当部署名		下水道建設課		予算科目	会計	下水道事業会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうおいのある 住みよいまち		款	資本的支出	
	施策	5	上下水道		項	建設改良費	
	施策の方向	4	下水道事業の推進		目	管渠建設費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民全体					
	目的 (どうしたいか)	市民が衛生的で快適な生活が営めるように生活環境の改善と水質改善を図る。					
	手段 (事業内容)	生活排水を水路や側溝に流さず、污水管によって処理場へ運び処理した水を河川へ放流し、生活環境の改善と水質改善を図る事業。測量、設計、家屋調査、水道管・ガス管等の移設及び工事を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和2年度決算)≫	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 下水道事業費:315,117 大和川下流 流域下水道事業費:59,481 【特定財源】 社会資本整備交付金:78,000 受益者負担金:23,368 事業債:253,000	
当初予算額	事業費	536,580	544,393	569,564		
決算額	事業費	453,794	374,598	—		
	特定財源等	471,670	354,368	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	工事延長	単位	m
指標の説明	1年間で敷設した新設污水管渠の延長		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	1,802	1,073	741
実績	1,695	982	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	汚水整備率	単位	%
指標の説明	区域内人口(人)/総人口(人)		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	86.1	86.1	86.1
実績	85.8	85.7	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	改善して継続	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 生活環境改善のため、汚水整備事業は重要で市民からも要望されており、今後も事業を促進していく必要がある。しかし、下水道整備率が上がるに連れて、効率的に汚水整備できる地域が少なくなり、一定の成果をあげることが困難になっている。また近い将来予想される人口減少により厳しい財政事情を踏まえ、公共下水道事業全体として、計画的、効率的な事業を行えるよう進めていく必要があります。		(令和3年度以後の事業実施への改善内容) 整備困難な地域をより効率的に整備するために、既存の整備計画の見直し、污水管渠ルートの再検討、工法選定の再検討等を行い、事業の改善を図る。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

					事務事業コード		154-02-01			
事務事業名		雨水整備事業		事務の種類			自治事務(義務的なもの)			
				連絡先			内線2322			
担当部署名		下水道建設課		予算科目	会計		下水道事業会計			
総合基本計画	施策目標		1		快適でうるおいのある 住みよいまち		款		資本的支出	
	施策		5		上下水道		項		建設改良費	
	施策の方向		4		下水道事業の推進		目		管渠建設費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)		市民全体							
	目的 (どうしたいか)		雨水による浸水等で、市民の生命・財産に危険が及ばないようにし、快適な生活を送れるまちとする。							
	手段 (事業内容)		雨水管渠等により、公共用水域に雨水を排水し、市民が住みよいまちづくりを行う事業。測量、設計、家屋調査、水道管・ガス管等の移設及び工事を行う。							

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和2年度決算)≫	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 下水道事業費:121,658 河川総務費:1,960 排水路費:3,467 【特定財源】 社会資本整備交付金 (防災・安全):36,925 事業債:12,700	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
当初予算額	事業費	93,783	170,817	210,605		
決算額	事業費	67,425	127,085	—		
	特定財源等	9,281	49,625	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	工事延長	単位	m
指標の説明	1年間で整備した新設雨水施設の延長		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	211	220	152
実績	31	64	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	雨水管渠延長	単位	m
指標の説明	市が管理する雨水管渠総延長		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	32,217	32,681	33,267
実績	32,461	33,115	－

【事業費】 下水道事業費:121,658 河川総務費:1,960 排水路費:3,467 【特定財源】 社会資本整備交付金 (防災・安全):36,925 事業債:12,700

≪事業の参考数値等≫ 令和2年度末 管渠延長:33,115m ・前年度延長 + 64m + 590m (市工事)(民間工事) 令和3年度末 管渠延長:33,267m ・前年度延長 + 152m (市工事)
--

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題) 雨水整備事業は、近年の豪雨による浸水被害対策のためにも重要な事業であり、厳しい財政状況の中においても整備を進めている。しかし、一定の成果は上がっているものの、施設整備等のハード対策には限界があり、ソフト対策(ハザードマップを活用した浸水情報の提供等)も必要となってきた。限られた予算と人員の中で、課題について調査検討を実施し、公共下水道事業全体として、計画的に効率的な事業を進めていくためにも中長期的対策を講じる必要があります。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容) 年々強さを増す雨による浸水被害対策をより効率的に行うため、浸水地域を通る雨水幹線管渠について、既存の雨水排水施設を活かしつつ、バイパス管の整備や、管渠排水能力を増強を図る。 また、想定し得る最大規模の雨に対応したハザードマップの見直しを進め、避難体制等の充実・強化を図る。